

【様式】

平成31年度 学校マネジメントシート

学校名（四日市中央工業高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○校訓「誠実 努力 親切」及び「四中工はあなたの能力を伸ばします！」の指導方針のもと、学習者の視点に立って、安全で安心な教育環境を全教職員が一丸となって構築し、生徒・保護者・地域の方々に信頼される工業高校を目指します。
(2)	育みたい 児童生徒像	○基本的な生活習慣が確立し、基礎学力やコミュニケーション能力の定着が図られ、将来のグローバル社会においても対応できる実践能力や課題解決力を備えている。
	ありたい 教職員像	○企業が望む人材を育てるため、教員自らが、たゆみなく授業力の向上に努力できる。 ○協働による取組により組織力を高めることができる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		＜生徒＞ 分かりやすく丁寧な指導を望み、社会で役立つ知識や技術を身につけたい。 ＜保護者＞ 生徒が希望する進路実現が果たせるよう、しっかりと指導してほしい。 ＜企業・大学＞ 基本的な生活習慣を身につけ、基礎学力やコミュニケーション力を持ち、社会人として組織の中で、明るく元気に能力を発揮出来る力を身につけてきてほしい。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		＜家庭＞ 安全で安心な教育環境のもと、生徒の能力を伸ばして欲しい。 ＜企業・大学＞ 原理原則・基礎基本を身につけ、挨拶や礼儀などの基本的な生活習慣を確立された、明るく元気で組織の中で能力を発揮できる人材が欲しい。 ＜地域社会＞ 生徒の地域社会における規律遵守と地域行事への参加等協力が欲しい。	＜家庭＞ 学校の教育方針への理解と協力、及び躰等での家庭の立場で学校を応援してほしい。 ＜企業・大学＞ 継続的な受け入れをして欲しい。技術指導等外部教育の面で協力して欲しい。 ＜地域社会＞ 地域が学校と手を携え、一緒に子どもたちを育てて欲しい。
(3) 前年度の学校関係者評価等		教育活動全体としては、進路実績や部活動指導、人権教育、地域との連携等、成果を上げており、概ね学校の教育活動を評価していただいた。 その中で課題及び要望として、 ○今後、さらに原理原則、基礎基本を皆に定着させること、および、座学と実習との関係性を重視するとより系統的な授業体制が構築できる等の授業改善に関する要望 ○さまざまな企業を見学させ、現実的な将来像を考えさせる機会が必要であること等のキャリア教育取組に関する要望 ○自転車運転、スマホ等の問題を学校内だけでなく保護者を交えて検討する必要性や実習授業での事故防止を含めた「安全」教育の徹底に関する要望 ○社会に出ていくと今よりもコミュニケーション能力や個々の意思表示が求められることが多くなることを前提にした効果的な取組に関する要望をいただいた。	
(4) 現状と課題	教育活動	授業規律の確立が進んできたが、引き続き、より一層の充実に努め、新学習指導要領に基づき生徒が主体的に授業に臨むような授業の展開を行うことが課題である。 主体的な学びやコミュニケーション力を養うと同時に、生徒一人ひとりが基礎学力を向上させることが必要となっている。	

	学校運営等	部活動の活発な学校として中学校や地域、企業からの評価は高い。工業高校生として専門分野に精通し、グローバル化等の社会変化に対応できる力を身につけるとともに、部活動をとおして磨かれる強い精神力と身体を兼ねそなえた職業人を育成するため、組織力向上の取組を充実させる必要がある。 過重労働気味の教職員も多く、さらに業務の効率化が必要である。
--	-------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	- 生徒の基本的な生活習慣を確立し、挨拶や時間の遵守など社会生活での対応力を育てます。 - 低学年次からのキャリア教育に取り組み、生徒に組織や社会における対応力、コミュニケーション力を身につけさせ第1志望の合格内定者増を目指します。 - 温かい人間関係づくりや仲間づくりの取組をとおして、他人を思いやり、痛みの分かる生徒を育て、尊い命を大切にすることを育む教育の取組をめざします。 - 新学習指導要領が告示され、また、高校の学力確認テストの試行実施もまじかに控えたなか、主体的な学びに対応したカリキュラム改善に取り組みます。
学校運営等	- 生徒に提供する授業内容を工夫改善し、学力向上に繋げるため、小グループによる授業公開等を行い、教員の授業力向上を図る取組を行います。 - 学校活性化のための取組を進める上で、全職員が学校の課題を共有し、県立高等学校活性化計画を踏まえて多様な教育課題へ組織的、協働的に取り組むことができる集団づくりを進めます。 - 教職員が、仕事を助け合い、また、意欲的に業務に取り組めるよう、組織の目的を共有する対話の場をつくり、教育活動全般の刷新と業務内容のスリム化や課外活動の指導の工夫等により、総勤務時間の縮減を図ります。中でも、月80時間を超える過重労働教職員を段階的に減少させ、令和3年度4月までにほぼ0人とするよう取り組みます。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	- 学びの基礎診断(進路マップ等)による基礎学力の定着と新学習指導要領を踏まえ生徒の主体的・対話的な学びの構築に取り組みます。 【活動指標】2～3回の進路マップ及び1回の業者テストの実施 授業において、グループ活動やプレゼン活動等の生徒の主体的な学びを積極的に取り入れる 【成果指標】朝トレを通して1年間で基礎診断の評価の上がった生徒数が全生徒の25%以上 グループ活動や生徒によるプレゼン活動を実施している授業割合50%以上	(年度末および適宜記載)	
キャリア教育の充実	- 低学年次からキャリア教育に取り組み、組織の中での対応力やコミュニケーション力を養います。 【活動指標】多様な進路ガイダンス等の実施 各科別で企業見学の実施 【成果指標】生徒の進路実現に対する満足度90% インターンシップ以外の企業見学の実施率50%		
生徒指導の充実	自転車通学マナーの向上と交通事故減少を年間通して取り組みます。		

	・廊下等での「ながらスマホ」対策に取り組みます。 【活動指標】 日常の指導に加えて強化取組を実施 スマホの使用に関して保護者と情報共有 【成果指標】 年間通学時の交通事故発生件数 前年度比 70 % 保護者とスマホ使用に関する検討会の実施		
人権教育の充実	・人権感覚豊かな学校環境づくりと仲間づくりを進め、命を大切にすることを育む教育の取組を行います。 【活動指標】 人権講演会、人権 LHR、県の研究事業、中央祭や保健部行事等の学校行事の活用 【成果指標】 年度末調査における教職員によるプラス評価 90 %		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	・県立高等学校活性化計画を踏まえ、学級減を見据えた対応の協議を進めるとともに、全国総体など役割が増える中、教職員の協働による取組と課外活動の指導の工夫等により総勤務時間の縮減を図る。 【活動指標】 (1) 学級減を見据えた学校活性化に向けた検討会の実施 2 回 (2) コンピュータを用いた退勤管理の徹底 (3) 定時退校日の設定 ・原則毎週月曜日を定時退校日とし、原則日に実施できない場合は別の日に週 1 日以上設ける。 (4) 部活動休養日の設定 ・「三重県部活動ガイドライン」に従い、原則、土日のどちらかを部活動休養日とする。土日に実施できない場合は別の日に 1 日の休養日を設ける。 (5) 教職員の長期休業中の積極的な休暇取得 【成果指標】 ○月平均時間外労働時間前年度比 10 % 減 (H30 26.6 時間) ○年度末調査における、学級減にかかる対応の教職員の関心度 70 % ○月 80 時間以上の過重労働教職員の延べ人数が前年度比 70 % (H30 58 人)	(年度末および適宜記載)	

	○教職員の年間休暇取得日数平均の前年度比 0.5 日増 (H30 23.7 日)		
チームワーク の向上・意欲 の増進	・四中工の未来を語る会、コンプライアンス研修、振り返りアンケートにより、職員の意識・意欲の増進に努めます。 ・新学習指導要領に基づいたカリキュラム改善について、学校改革委員会の中で検討します。 【活動指標】 未来を語る会、コンプライアンス研修ともに年 1 回の実施 振り返りアンケートの実施 先進的なカリキュラム実践校へのベンチマーキングの実施 【成果指標】 研修、語る会の参加職員の満足度 70 % 振り返りアンケート年 3 回実施		
地域との連携	・工業高校としてのものづくり教育を充実させ、その成果や教育活動の内容を地域へ積極的に発信し、学校に対する理解を深め、地域との結びつきを充実させます。 【活動指標】 年 5 回の発信活動		
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次へ の取組方向	(年度末に記載)
-----------------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	(年度末に記載)
学校運営につ いての改善策	(年度末に記載)